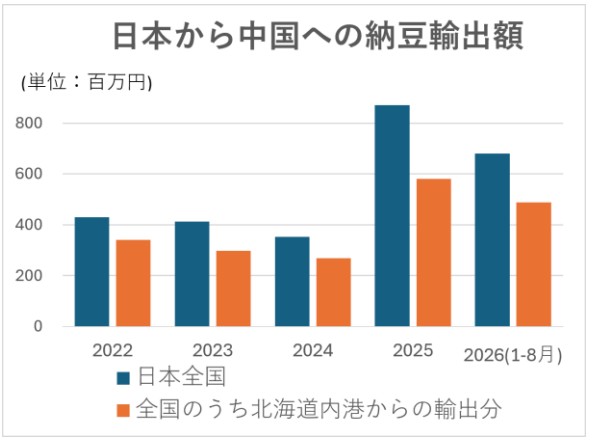
海外駐在員現地レポート・上海事務所（2026年10月）

報告者　日中経済協会上海事務所 北海道経済交流室長　亀井　良司

（件名）中国への道産納豆の輸出について

1. 納豆輸出・販売の状況



（出展）財務省貿易統計データより筆者作成

・日本から中国への納豆の輸出が近年増加傾向にあります。財務省発表の貿易統計によると、2024年に3.5億円だった輸出額は、2025年には8.7億円と2.5倍に増加。2026年1～8月の8カ月間では、前年同月比25%増の6.8億円で推移しています。

・特筆すべき点は北海道のシェアです。輸出額のうち7割前後が北海道内港からの輸出によるものとなっており、圧倒的な割合を占めています。

・上海市内の日本式スーパーでは、様々な種類、産地の納豆が陳列されており、多いところでは20種類前後揃える店もあります。日本産品をほとんど取り扱いしていない中国資本のスーパーでさえも日本産納豆を見かけることがあり、身近な存在になりつつあります。

・小売店での販売価格は15～25元ほど(約350～590円)で、日本の小売価格の3～5倍の水準ですが、一部の小売店からは「販促活動をしなくても売れる」との声が聞かれるほど消費者から支持されているそうです。

2. 食品輸入商社からのヒアリング





・道産納豆を中国に輸入している上海璟欣食品有限公司の代表・楊玉舒さんに、取扱状況や需要増加の背景などについてうかがいました。

■取扱状況

・2024年に納豆の輸入を開始しましたが、販売は順調でこれまで毎年20%輸入量が増加しており、現在では月あたり12万セット（1セット＝40g×3パック）ほどを冷凍で輸入しています。人気がある商品は粒の小さい納豆で、極小、小粒サイズがよく売れていますね。北海道、秋田県、熊本県のメーカーと協力し、自社ブランド商品をOEMで生産していますが、中国での納豆需要の拡大が進んでいるため、今後調達先を拡大することも視野に入れています。

・主な販路はスーパーやEC。特に大手ECサイトでの販売が好調で、まとまった数量でセット購入する方が多いです。当社では冷凍食品全般を手掛けており、中でもフライドポテトを主力商品として取り扱いしていますが、ECサイトの検索キーワードを分析したところ、「納豆」の検索回数が「フライドポテト」の回数に迫る数値となっていました。フライドポテト並みに納豆の認知度や需要が高まっているとも考えられ、国内で想像以上に高い関心を呼んでいるようです。

■需要増加の背景

・納豆の需要増加の背景には健康志向の高まりがあります。発酵食品が注目され、納豆も健康面での効果の期待から消費が伸びています。朝食時のたんぱく源として、調理が必要なタマゴよりも手軽に食べられる納豆を選ぶ人も増えていますね。匂いや粘りに不慣れな人も多いですが、一度食べるとクセになり継続的に購入するケースも少なくありません。

■北海道産品について

・北海道はブランドイメージが良いため、パッケージに「北海道」と記載してあると効果的にアピールできます。北海道からは毎月中国向けに納豆を積んだ冷凍コンテナを出しており、このルートを活用して納豆の他にも様々な北海道産の冷凍食品を取り扱っていきたいと考えています。道産品の取り扱い増加のため、道内で開催される展示会・商談会にも参加していきたいですね。